

# 不登校の現状と報道

2005.8.27

札幌たのしい授業・研究サークル用レポート

仮説実験授業研究会・北海道・丸山秀一

[C]Maruyama Shuichi

## 【問題】

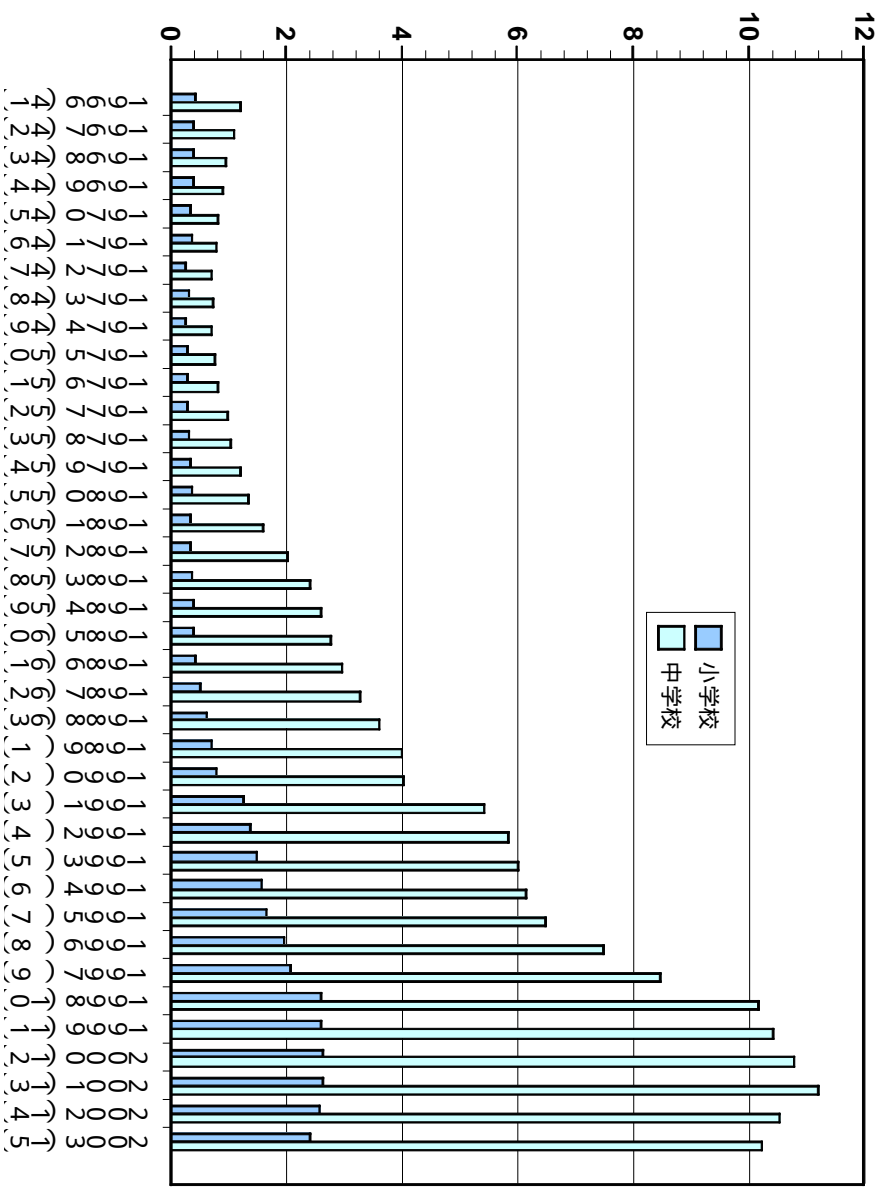
不登校者数の変遷は次のページのグラフの通り,2001年度をピークに減少に転じています。先日,文科省は学校基本調査の速報を発表し,2004年度の不登校者数が明らかになりました。では,2003年度と比べて不登校者数は増えたのでしょうか。それとも減ったのでしょうか。

予想      小学校(      )      中学校(      )

- ア 減った
- イ ほぼ同じ
- ウ 増えた

(単位:万人)

不登校者数



## 2003 年度の不登校者数

学校基本調査の「調査結果の要旨」には、次のようにあります。

(太字と下線は原文のママ)

平成16年度間の長期欠席者(30日以上)のうち、  
「不登校」を理由とする児童生徒数は12万3千人で3年連続  
して減少(3千人減少)。

「不登校」を理由とする児童生徒数は、小学校2万3千人(前年度間より1千人減少。対前年度比3.2パーセント減)、中学校10万人(前年度間より2千人減少。対前年度比2.1パーセント減)の合計12万3千人(前年度間より3千人減少。対前年度比2.3パーセント減)で、3年連続減少。

つまり「前年度比2~3%減少」ということですが、これは「子どもの総数が減っているから、不登校者数も減ったということではないか」とも考えられます。

### 【問題】

では、「就学者に対する不登校者数の割合」で見ても、不登校の割合は減っているのでしょうか。

予想 小学校( ) 中学校( )

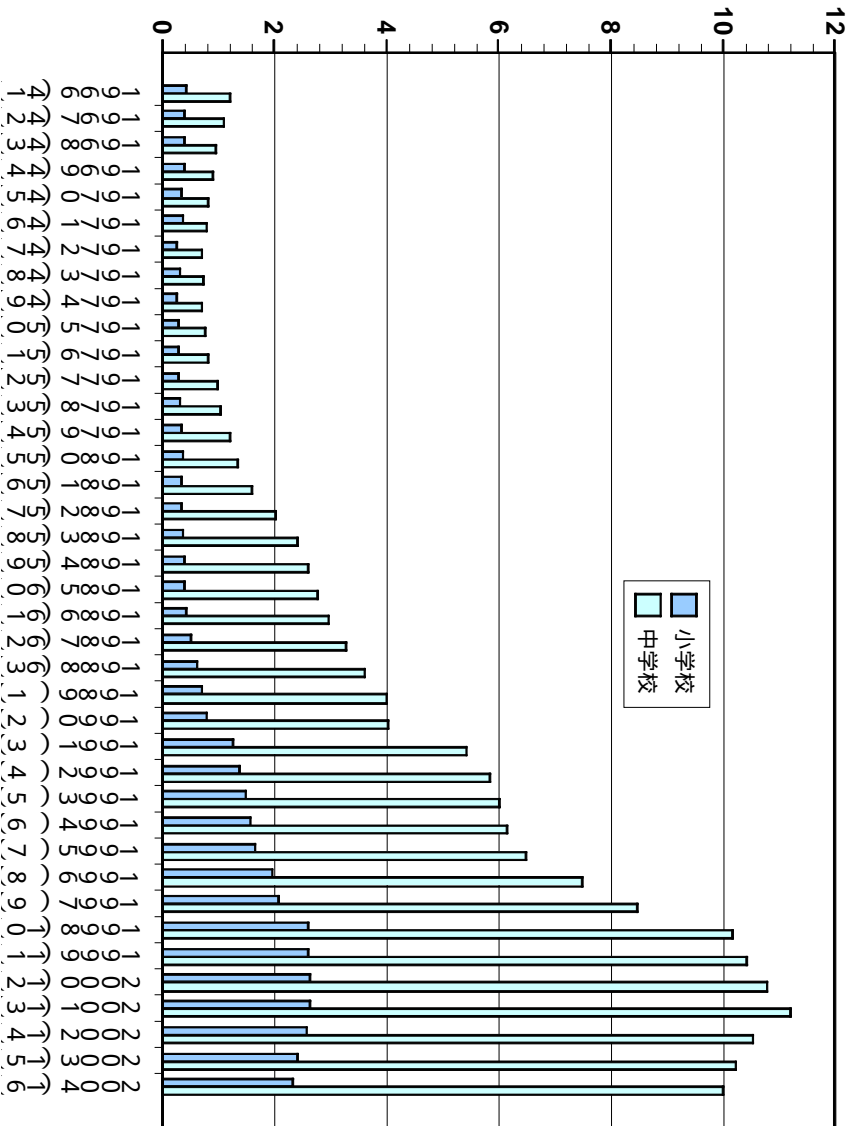
ア 減っている

イ ほぼ同じ

ウ 増えている

(单位:万人)

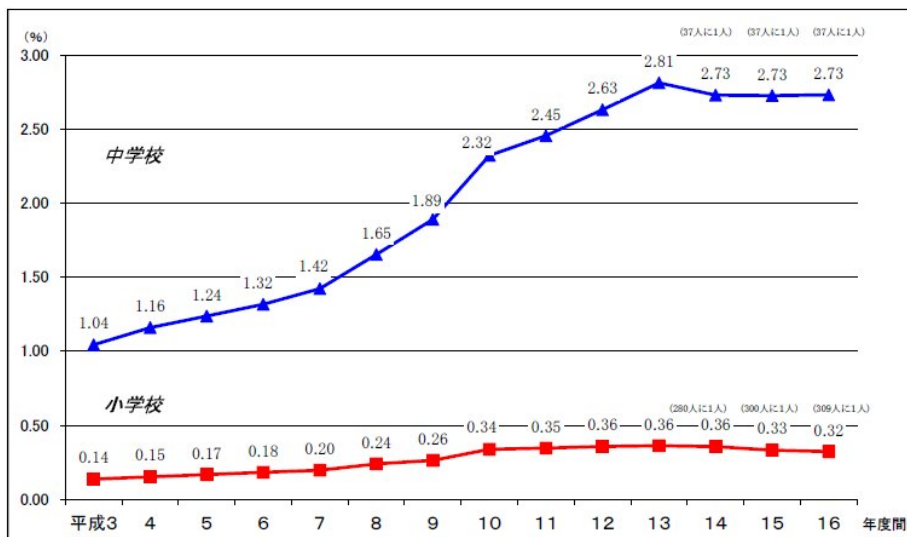
不登校者数



## 減らない不登校

文科省が発表した「調査結果の要旨」には、割合についての記述はありません。ただ割合のグラフとデータへのリンクがあり、グラフは次のようなものです。

全児童、生徒数に占める「不登校」の比率



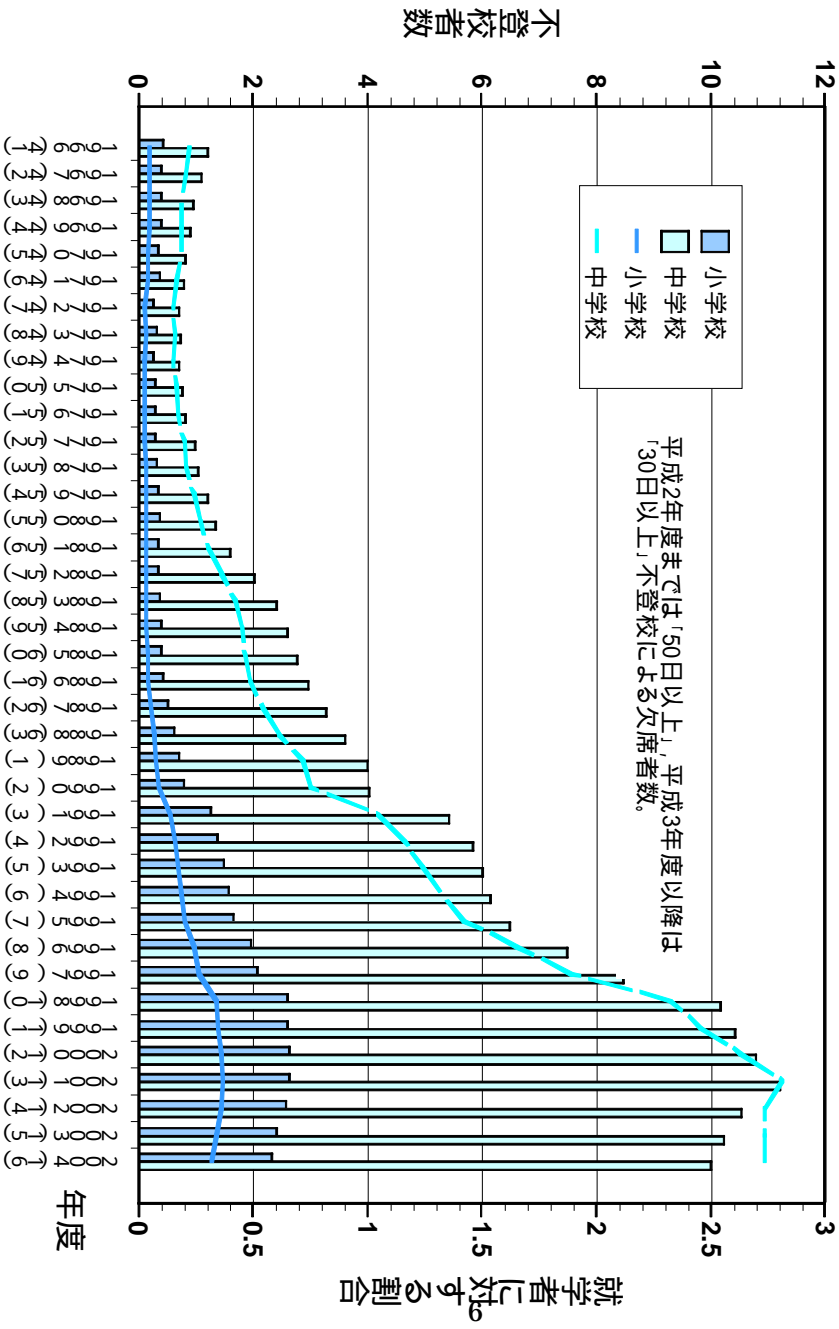
このように就学者に対する比率では、小学校では前年度比 0.01%減少、中学校では同じ、全体では 0.01%減少となっています。つまり、不登校は総数では減っているものの、それは就学者数が減っているためで、比率としては横ばいなのです。

# 不登校者数の変遷

2000.12-2005.8 [C]Maruyama Shuichi  
 データは「学校基本調査(文科省)より」

(単位:%)

(単位:万人)



## 【問題】

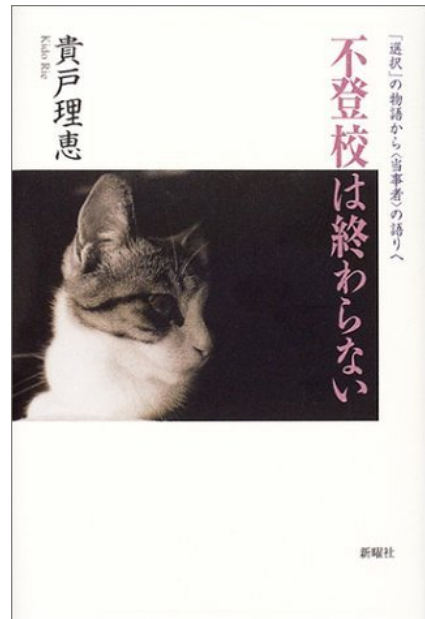
この文科省の発表をマスコミはどのように報道したのでしょうか。全国紙（読売，朝日，毎日，日経，産経）で調べてみましょう。

文科省の「調査結果の要旨」には，比率についての記述がありませんでしたが，全国紙の記事のタイトルで比率について触れている新聞はあったでしょうか。

予想

- ア すべての新聞が触れている
- イ ほとんど触れている
- ウ ほとんど触れていない
- エ 触れている新聞はない

『たのしい授業』2005.8で桑野裕司さんが推薦していた本。



### 「3年連続減少」

各新聞社のサイトにより調べてみると、全部の全国紙が文科省の発表通りのタイトルで「不登校3年連続減少」としていました。タイトルで割合について触れているのは、毎日新聞だけで「全体の割合は微減」と加えられていました。

全国紙の記事タイトル	
朝日	不登校の小中学生，3年連続で減少 文科省調査
産経	不登校，3年連続で減少 大学進学率は初めて50%超
日経	不登校3年連続減少・昨年度小中学生
読売	昨年度の不登校小中生，3年連続減の12万3千人
毎日	不登校：児童・生徒数は3年連続減少 全体の割合は微減

記事のタイトルだけ見た人は、「不登校はかなり減ってきているのだなぁ」と思うことでしょう。

### 【問題】

では記事の内容ではどうでしょうか。記事の内容でも、比率のことには触れていなかったと思いますか。

予想

- ア すべての新聞が触れている
- イ ほとんど触れている
- ウ ほとんど触れていない
- エ 触れている新聞はない

## 記事内容

記事の内容では、すべての全国紙が触れていますが、ニュアンスが微妙に違います。(太字は筆者による)

比率について全国紙の記事内容	
朝日	総数そのものも少子化で過去最低となっており、全体に占める割合としては1.14%で <b>ほぼ横ばい</b> だった。
産経	児童生徒全体に占める割合も0.01ポイント <b>減り</b> 、1.14%だった。
日経	児童生徒全体に占める割合は1.14%で0.01ポイント <b>低下</b> した。
読売	ただ、小中学生数も減っているため、全体に占める割合(1.14%)は0.01ポイント <b>改善</b> しただけ
毎日	ただ、児童・生徒全体に占める不登校の割合は1.14%(前年度比0.01ポイント減)と <b>わずかな減少にとどまった</b> 。

経済新聞二社が数字のみを簡潔に伝えているのに対して、ほかの全国紙は、ほぼ実態に近い書き方をしているようです。

## 【問題】

文科省のコメントも記事に含まれている全国紙が4つあります。では、文科省はどのようなコメントをしていると思いますか。

予想

- ア 減少傾向にある
- イ 減少傾向とは言えない
- ウ そのほか

## 文科省のコメント

朝日新聞以外の全国紙が文科省のコメントを載せています。これも微妙にニュアンスが違うのですが、文科省は減少傾向とは判断していないことがわかります。(太字は筆者による)

文科省のコメントについて全国紙の記事内容	
朝日	(載せていない)
産経	文科省は「 <b>適応指導教室を充実させた成果</b> などが表れたと考えられるが、依然として不登校は12万人に上っており、 <b>教育上の深刻な課題だ</b> 」としている。
日経	文科省は「 <b>適応指導教室の充実</b> など様々な施策の効果だと思うが、依然として12万人台に上っており、 <b>深刻な教育上の問題だ</b> 」(児童生徒課)と話している。
読売	文科省は「 <b>教育上の深刻な課題</b> であることに変わりはない」としている。
毎日	文科省は「 <b>スクールカウンセラー</b> などの相談体制や <b>教育支援センター(適応指導教室)</b> などの対策が功を奏していると思うが、 <b>減少傾向とまではいえない</b> 」とみている。

### 【質問】

文科省のコメントが不登校の実態であるなら、記事のタイトルは多くの人に誤解を与えるようなものになっています。もしあなたが新聞記者なら、記事のタイトルを何と付けますか。

## 【研究問題】

NPO「全国不登校新聞社」が発行している「Fonte（旧称 不登校新聞）」という新聞があります。この新聞に取り上げられている文科省の発表は、どのような記事になっているのでしょうか。

予想

- ア 全国紙とほぼ同じ
- イ より「減少」を強調
- ウ より「深刻な問題」を強調



前向きな姿勢？！

不登校新聞の記事タイトルは「不登校数 12 万人 3000 人に〔学校基本調査〕3 年連続減、割合は横ばい」で、記事には比率と文科省のコメントが次のように載っています。

全児童生徒に占める割合は 0.01 ポイント減少の 1.14%となった。文科省は、不登校数の減少について「スクールカウンセラーの配置など地道な取り組みの成果と言えるが、以前（マ）として相当数の不登校児童生徒がおり、重要な課題。今年度からの民間施設への調査委託、カウンセラーの充実などで、不登校の子どもたちの学校復帰、社会的自立に向けて取り組んでいきたい」との見解を示した。

全国紙とほぼ同じ内容ですが、少しニュアンスが異なるようで「やる気のある文科省」という感じがします。

#### 【質問】

あなたはこれから不登校が減っていくと思いますか、それとも増えてゆくと思いますか。

## 予想

これからも少子化が進行することを考えると、不登校者数はこのまま減少していくかも知れません。でも、昨今の「学力重視への回帰」「学校の管理体制の強化」などを考えれば、比率において、減少していくことは予想できません。学校がますますつまらないところになっていくだろうからです。しかし、長期的に見れば、「たのしさ重視」になってゆくことは、間違いのないと思っています。

今回、マスコミ報道で「不登校減少」というニュースを見聞きして違和感を覚えて、「新聞各社について報道が違うかどうか」を調べてみました。

いろいろと調べるうちに、様々な不登校についてのサイトを見ることになり、「中学校まで不登校だったのに定時制高校では皆勤賞」などの人を見つけると、うれしくなりました。やはり、定時制高校では、校則などの強制が少なく、みんなが個性ありすぎなのが良いのかも知れません。今日は始業式、久しぶりに登校してきた生徒さんが「いやあ、やっぱり学校はいいね」などと言っています。でも、ここも残念ながら、確実に管理的になってきているなあ。

閉校準備であちこちに「廃棄シール」が貼られた落ち着いた職員室にて。

丸山秀一 [kasetsu.maruyama@nifty.com](mailto:kasetsu.maruyama@nifty.com)

## オマケ

『教育技術』などの教育誌のサイトでは、どんな報道がなされているでしょうか。

## 出典

- 文科省 学校基本調査速報  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/001/04073001/001.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/04073001/001.htm)
- 毎日新聞 Mainichi-MSN ニュース  
<http://www.mainichi-msn.co.jp/shakai/edu/news/20050811k0000m040157000c.html>
- 朝日新聞 asahi.com  
<http://www.asahi.com/national/update/0810/TKY200508100271.html>
- 不登校新聞  
<http://www.futoko.org/cgi/newsread/newsread.cgi?disc=newest&st=45&ed=45>
- 産経新聞 Sankei Web  
<http://www.sankei.co.jp/news/050810/sha094.htm>
- 日本経済新聞 Nikkei-net  
<http://www.nikkei.co.jp/news/shakai/20050811AT1G1004610082005.html>
- 読売新聞 YOMIURI ONLINE  
<http://www.yomiuri.co.jp/national/news/20050810i114.htm>
- 北海道新聞  
<http://www.hokkaido-np.co.jp/Php/kiji.php3?&d=20050811&j=0046&k=200508118004>